

A 次の1～52の答えや□に入る適語を語群から選び、記号で答えなさい。53～88は、設問の指示に従って答えなさい。

- 1 「斜陽」「走れメロス」の作者はだれか。
- 2 「羅生門」を著し、現在、賞の名になっている作家名は。
- 3 「伊豆の踊子」を著したノーベル賞作家の名は。
- 4 「草枕」「三四郎」「明暗」の作者はだれか。
- 5 「たけくらべ」を著し、現在の五千円札にもなっている女流作家の名は。
- 6 見て感じたままによむ「写生」俳句を唱えた俳人の名は。
- 7 森鷗外の代表作を一つ選びなさい。
- 8 「浮雲」を著した作者名は。
- 9 「徒然草」の作者名は。
- 10 三行書きで短歌を表現した人はだれ。
- 11 「君死にたまふこと勿れ」を著した女流歌人の名は。
- 12 鴨長明が記した「方丈記」の作品のジャンルは何。
- 13 「記紀」といえば、「古事記」と何。
- 14 「ますらをぶり」を特徴とする日本最古の歌集は「□」。
- 15 勅撰和歌集とは、どんな身分の人が勅命しているか。
- 16 日本最古の□物語の冒頭は「今は昔」で始まる。
- 17 □の冒頭は「春はあけぼの」ではじまる。
- 18 「仮名序」で有名な勅撰和歌集の名は。
- 19 「祇園精舎の鐘の声、□の響きあり。」
- 20 信濃国前司行長が作者と徒然草に記されている物語の名は。
- 21 芭蕉は「□」に、白河、松島を訪れたいと記している。
- 22 芭蕉の尊敬する歌人で「三夕の歌」の一人である歌人の名は。
- 23 紀貫之が仮名書きで著した日記の名は。
- 24 新古今和歌集の撰者の一人で、「小倉百人一首」を編纂した人の名は。
- 25 平安時代を代表する女性で紫式部のライバルとされた人は。
- 26 五七・五七・五七と五七音を三回以上繰り返して最後を五七七音で結ぶ形式の歌を何というか。
- 27 「ひさかたの」のように五音のことばを何というか。
- 28 「多摩川にさらす手作りさらさら」に何その児のここと愛しき」の「さらさら」のようにいくつかの意味を持つことばを何というか。
- 29 「父母が頭かき撫て幸くあれと言ひし言葉忘れかねつる」の歌のように主に東国地方から派遣され、北九州地方の警備にあたった兵士やその家族の歌を何というか。
- 30 一行五音、四行(四句)の漢詩の形式を何というか。

- 1 -

組 番

「

- 31 一行七音、八行(八句)の漢詩の形式を何というか。
 - 32 李白は□時代の詩人。
 - 33 「論語」の作者名は。
 - 34 漢文の左下に付けて、読む順序を示す「レ」や「一・二」のような記号を何と言うか。
 - 35 「人間よ、もう止せ、こんな事は。」のように、言葉の順序を変えて、印象を強める表現技法を何というか。
 - 36 「ゆさゆさと」「ばちばち」のような言葉をなんとと言うか。
 - 37 「春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山」のように、結びに名詞をおき余韻を残す技法を何というか。
 - 38 「この古い家が持ち主を変えるほかなかった理由を説き明かし顔である。」のように、人以外のものを人にとえる表現技法は。
 - 39 「まるで石像のように動かない。」で使われている表現技法は。
 - 40 「あやしうこそものぐるほしけれ」の中で、「こそ」があることによる「けれ」と文末の形が変わり、強調する法則を何というか。
 - 41 「ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな」の「かな」のような言葉を何と呼ぶか。
 - 42 説明文や論説文の最初に筆者の意見を書く方法を() 括弧という。
 - 43 国破れて山河在り * 上記のように、つりあう二つの句を並べ、リズムを整える表現技法を何というか。
 - 44 故人西辞黄鹤楼 * 上の漢詩の州と流のように、煙花三月下揚州 似た音にして調子を整える 孤帆遠影碧空尽 表現技法を何というか。 惟見長江天際流
 - 45 「入れものが無い両手で受ける」のように「五・七・五」の形式にとられない俳句を何というか。
 - 46 「桐一葉日当たりながら落ちにけり」の俳句のように十七音全部で季語のことだけを描写する方法を何というか。
 - 47 「杞憂」のように中国の昔の話から生まれたことば何というか。
 - 48 「たかをくくる」のように長い間広く使われてきた二つ以上の単語からなるひとまとまりのことばのことを何というか。
 - 49 新聞などで、記事の内容が一目見てわかるようにつけられた標題を何と呼ぶか。
 - 50 文章構成は□論・本論・結論で成り立っている。
 - 51 文章中で、話題を変えるときに使う接続詞は何。
 - 52 中国の作家で「藤野先生」や「阿Q正伝」を著した作家の名は。
- ア 藤原定家 イ 清少納言 ウ 孔子 エ 魯迅 オ 芥川龍之介
 カ 二葉亭四迷 キ 与謝野晶子 ク 川端康成 ケ 正岡子規 コ 西行
 サ 太宰治 シ 夏目漱石 ス 兼好法師 セ 樋口一葉 ソ 石川啄木
 タ 高瀬舟 チ 枕草子 ツ 明暗 テ 平家物語 ト おくのほそ道
 ナ 古今和歌集 ニ 新古今和歌集 ニ 万葉集 ネ 日本書紀 ノ 竹取
 ハ 土佐日記 ヒ 俳諧紀行文 フ 随筆 ヘ 歌人 ホ 諸行無常

- 2 -

☆ 次の各段落を順番に並び替えてみよう。

① ニュース報道を例に取ってみよう。ニュースは、私たちが政治・経済の動きや海外の動向をチェックするうえで重要な役割を果たしているが、もちろんそこで取りあげられているのは、社会をそのまま鏡のように映し出したものではない。ニュースといえども、どんなテーマをどんな視点から取りあげ、誰に取材し、コメントのどんな部分をどう使って、どのように構成するのかによって、受け手にとっての見え方は変わってくる。

② 私たちは、ふだん、何か新しいことを知るためや、疑問を解決するため、考える材料を得るために、メディアを活用して情報を集めている。その際、どんな立場から、どんな情報源を使って発信されているか、なぜそうしているのかなどについて、積極的に読み解いていくことが重要だ。そして、できる限り多様なメディアからの多様な情報を収集・分析・吟味することをおして、主体的 に情報を再構成していくことが求められる。

③ 現在は、情報通信システムの発展により、誰もが情報を発信できる時代になっている。これからは、受け手としてあらゆるタイプの情報と向きにつき合うためだけでなく、送り手として効果的にメッセージを送り出すためのメディア・リテラシーがますます必要になってくる。

④ 報道は、関係者や専門家の意見を交えて事件やできごとを説明することも多いが、その人が「当事者」なのか否かや、「賛成者」なのか「反対者」なのかをみると、伝えられた情報がどんな視点から切り取られたかがわかる。また、そのニュースにどんなタイトルや見出しをつけているか、どんな映像や写真を組み合わせているかに目を向けると、送り手はどのようなものの方を見方を伝えようとしているかが捉えやすくなる。こうした、制作過程における情報の取捨選択や編集機能が理解できれば、メディアが伝えていることは世の中のほんの一面であること、それらは多様な受け止め方が可能であることがわかる。そう認識することで、メディアの情報をうのみにせず、冷静に判断することもできるというわけだ。

⑤ メディア・リテラシーの重要なポイントは、メディアから送り出される情報は現実そのものではなく、「送り手の観点から捉えたものの見方だ」という点にある。